

【講座:その人を理解するための傾聴とは?】添付資料

表1 認知症ケアの2つの文化

	古い文化	新しい文化
認知症の 一般的見方	人格と自己が進行的に破壊される中枢神経の恐ろしい病気である。	認知症状を示す病気は、第一に、障害としてみるべきである。どのような症状を持つかはケアの質に決定的に依存する。
一番知識の ある人	認知症に関連して、もっとも信頼でき、有効で、関連する知識を持つのは、医師と脳科学者であり、彼らにしたがうべきである。	認知症に関して、もっとも頼りになり、効力があり、関連する知識があるのは、ケアの十分なスキルを持ち、優れた洞察力を持つ介護者である。
研究の重点	認知症の人に前向きにできることはほとんど無い。したがって、さらに生医科学研究が必要である。	人間に対する理解とスキルを高めることで、今できることはたくさんある。これは研究のためのもっとも緊急の事柄である。
ケアに必要な こと	ケアは基本的に安全な環境を提供し、基本的ニーズ(食事、着替え、排泄、暖かさ、清潔、適度な睡眠など)を満たすことと、有効な方法で身体的ケアを与える。	ケアはその人らしさを維持し高めることに関係している。安全な環境、基本的なニーズを満たすこと、身体的ケアを提供することは基本であるが、それらはケア全体の一部でしかない。
もっと理解しなければなら ないこと	障害をはっきりと正確に理解することが重要である。特に認知障害、認知症の症状を示す病気の進行は段階的に低下によって図式化する。	人の能力、好み、関心、価値観、スピリチュアリティをはっきりと理解することが重要である。認知症の現れ方は千差万別である。
行動障害への 対応	「問題行動」を示したときは、上手に効率的に管理しなければならない。	すべての「行動障害」は、第一に、ニーズと結びついたコミュニケーションの試みとして見るべきである。そのメッセージを理解しようとする必要がある。その満たされていないニーズに関わる必要がある。
介護者の 気持ち	ケアをおこなう上で重要なことは、介護者自身の不安、感情、弱さなどを無視することである。そして、理性的に効果的に介護を続けることである。	ケアをおこなう上で重要なことは、介護者が自分の不安、感情、弱さを無視せず、これらを介護の前向きな資源に変えることである。